

古染付展

会期：2007年1月16日（火）～12月24日（月）

古染付とその時代背景

古染付が焼かれたのは明朝末期の天啓時代（1621～27年）を中心として、崇禎時代（1628～44年）の初めころ迄の10年余りの間です。

この頃明朝は長く謳歌してきた王朝の歴史にも陰りが見え始め、各地で民変と呼ばれる民衆の反乱が相次ぎ、北方ではヌルハチが金国を起こし（1616年）、その子ホンタイジが国号を大清と改め（1636年）その勢力を拡大していました。明朝が滅び、大清国が北京に首都を移す1644年は目前に迫っていました。

一方、景德鎮窯は江南の華やかな文化の中で、その一翼を担う華麗な磁器を生産してきましたが、宮廷からの大量発注に官窯だけでは対応しきれなくなり、民窯へも依託して焼造を行うようになります。特に万暦期（1573～1620年）はその焼造数がピークに達して、上質の粘土が入手困難になり、「虫喰い」等が生じる粗雑な磁器も造るようになりました。万暦帝の死によって、宮廷用磁器の焼造が中止されると、民窯は自由な作風の磁器を焼造することが出来るようになり、海外からの注文にも応えて、ヨーロッパへも大量の民窯製品が輸出されました。

目を日本に転じると、1615年に豊臣家が滅んで徳川幕府が盤石の体制を整え始めた時期にあたり、茶の世界では織部好みと呼ばれる、独特の焼きものが流行っていました。

この様な中で、景德鎮民窯では日本からの注文に応え、織部好みの器を模した製品（例えば手鉢や扇形向付など）を造り、日本に輸出したのです。

景德鎮民窯の焼造環境と、日本の茶人の好みとがうまくかみ合っ、短い時間ではありましたが、自由奔放な作りの古染付は日本の茶人を魅了したのです。

※染付とは、酸化コバルトを主成分とする顔料を用い、素焼きした素地の上に文様を描き、その上から透明釉をかけて焼成する陶磁器のことです。染付は、少なくとも14世紀中頃（元時代）には完成していました。そのため、「古染付」という名前は付いていますが、特に古い時代の染付というわけではありません。



66 笠絵茶碗



62 鶏形向付 五客のうち

古染付の見所

虫喰い

「虫喰い」とは、器の口縁や角の釉薬が剥げ落ちた様子を指した言葉です。生地 of 胎土と釉薬との収縮率の違いから、薄くかかりやすい口縁部の釉薬は、焼造中に小さなガラス体の気孔を作ります。焼き上がった後にこの気孔はかきくだかれるため、口縁部に小さな穴ができます。この様子に風情があるとして、「虫喰い」はかえって日本の茶人に喜ばれました。

自由奔放な絵付け

器面には人物や動物、風景などの文様がおおらかな筆致で描かれています。自由奔放な絵付けは、染付けの鈍い発色とあいまって素朴な味わいをみせています。

人物文

羅漢や松仙人などの仙人、中国の官人姿の人物、唐子などがあります。中でも、仙人の飄逸とした表情や凜とした姿が好まれています。

動物文

馬や鹿など動物のみを描いたものから、瓜に栗鼠、象に唐子など、動物に植物や人物を組み合わせた文様もあります。動物の動きや表情の特徴を的確に捉えながら、のびのびとした筆致で愛嬌のある様子を表現しています。

風景文

主に山川を中心とした風景を描き、人物や舟などが点描されるものもあります。なかには詩文が書かれる皿もあり、器面に一幅の山水画を見るようです。

日本の茶人好みの器形・文様

古染付の中には、花生、水指、茶碗、手鉢、向付など、日本の茶人が注文した作品が多く見られます。中でも、織部焼の器形を倣った手鉢や、菅笠などの日本の文様を取り入れた作品は、これらが日本からの注文品であることを明確に示しています。古染付は中国で生産した磁器でありながら、日本の器形や文様を取り入れた特異な磁器であると言えるでしょう。また、向付には、象、仔馬、兔、蝶、桃、法螺貝などを模した独創的な器形があります。その自由な造形感覚は、現代の私達にも新鮮な驚きを与えてくれます。

展示作品リスト

作品 番号	作品名	作品名(ふりがな)	高さ (cm)	直径 (cm)
1	角形絵替り向付 五客	かくがたえがわりむこうづけ	3.4	12.8
2	小判形山水人物文向付 五客	こばんがたさんすいじんぶつもんむこうづけ	4.8	19.2
3	口唇形岩兎山水文向付 五客	こうしんがたいわうさぎさんすいもんむこうづけ	4.5	19.5
4	桃花人面物語図向付 五客	とうかじんめんものがたりずむこうづけ	4.0	18.4
5	兎図七寸皿	うさぎずななすんざら	3.9	21.9
6	四牛図七寸皿	しぎゅうずななすんざら	4.0	21.6
7	鶏図七寸皿	にわとりずななすんざら	3.5	21.3
8	梅鶯図七寸皿	うめうぐいすずななすんざら	3.8	21.1
9	鷹図七寸皿	たかずななすんざら	3.5	20.4
10	果樹詩入七寸皿 五客のうち	かじゅしいりななすんざら	3.7	20.8
11	百足図七寸皿 五客のうち	むかでずななすんざら	3.1	20.3
12	瓜図七寸皿 十客のうち	うりずななすんざら	3.4	21.6
13	牡丹唐草文七寸皿 五客のうち	ぼたんからくさもんななすんざら	2.8	21.2
14	雲鶴文七寸皿	うんかくもんななすんざら	4.4	20.9
15	鞠挾香合	まりばさみこうごう	4.0	4.4
16	兜巾茄子香合	ときんなすこうごう	4.7	5.7
17	捻酒盃	ねじしゅはい	3.3	7.3
18	吹墨魚付貝形酒呑	ふきずみうおつきかいがらぐいのみ	3.0	7.9
19	釉裏紅葡萄図角筆筒	ゆうりこうぶどうずかくふでづつ	11.4	4.6
20	水滴 桃・柘榴 一對	すいてき もも・ざくろ (桃)	6.3	9.5
21	釣魚図段皿	ちょうぎよずだんざら	3.2	25.0
22	象童子図大皿	ぞうどうじずおおざら	3.8	28.2
23	象童子図鉦鉢	ぞうどうじずどらばち	3.2	22.5
24	舟行送客図八寸皿	しゅうこうそうかくはっすんざら	5.0	24.2
25	釉裏紅網魚文平鉢	ゆうりこうあみぎよもんひらばち	4.0	21.5
26	五彩猿鹿文七寸皿	ごさいえんろくもんななすんざら	2.7	20.7
27	鶏耳青磁花入	けいじ せいじはないれ	27.7	10.1
28	蟹童子図袋形掛花入	かにどうじずふくろがたかけはないれ	18.7	11.2
29	鷹図水丞	たかすすいじょう	8.4	21.7
30	葡萄棚水指	ぶどうだなみずさし	17.9	18.3
31	花鳥文水指	かちょうもんみずさし	14.5	21.1
32	菊花栗鼠図絞手徳利	きくかりすずしぼりでとっくり	19.5	10.0
33	三馬図手鉢	さんばずてばち	11.2	19.0
34	山水人物文水注	さんすいじんぶつもんすいちゅう	12.1	12.1
35	瓜栗鼠図阿古陀小壺	うりりすずあこだこつぼ	10.1	10.5
36	井戸のぞき獅子蓋置	いどのぞきししふたおき	7.1	7.2
37	海浦文吹墨四方筒	かいほもんふきずみしほうづつ	7.3	6.3
38	鳳文筆洗	おおとりもんひっせん	6.6	13.9

39	松竹文酒呑 五客	しょうちくもんぐいのみ	6.5	6.7
40	唐子遊図茶碗	からこあそびずぢゃわん	8.5	9.8
41	柳人物図茶碗	やなぎじんぶつずぢゃわん	9.5	10.5
42	松竹梅図筒茶碗	しょうちくばいずつつぢゃわん	7.8	9.3
43	腰捻煎茶茶碗 五客	こしねじせんちゃぢゃわん	4.9	6.0
44	輪宝文火入	りんぼうもんひいれ	7.6	11.5
45	芦葉達磨図火入	あしばだるまずひいれ	7.6	9.8
46	馬図火入	うまずひいれ	8.3	11.1
47	梅花散輪花茶碗	ばいかちらしりんかぢゃわん	8.3	10.9
48	狩猟図筒茶碗	しゅりょうずつつぢゃわん	8.8	9.3
49	網文茶碗	あみもんぢゃわん	7.5	10.3
50	鉄青磁瑠璃掛分筒茶碗	てつせいじるりかけわけつつぢゃわん	12.4	9.7
51	芦雁図筒碗	あしかりずつつわん	9.1	6.8
52	麦藁手筒茶碗	むぎわらでつつぢゃわん	10.7	7.4
53	玉章形山水文向付 五客	ぎょくしょうがたさんすいもんむこうづけ	3.0	19.5
54	桃形山水文向付 五客	ももがたさんすいもんむこうづけ	4.2	14.8
55	輪花形吉祥花鳥文深向付 五客	りんかがたきしょうかちようもんふかむこうづけ	7.7	12.6
56	琵琶形向付 五客	びわがたむこうづけ	4.8	17.4
57	筍形向付 五客	たけのこがたむこうづけ	4.3	16.2
58	菱花形石畳花模様向付 五客	りょうかがたいしたたみはなもようむこうづけ	4.5	17.6
59	蓮華形向付 五客	れんげがたむこうづけ	4.3	13.2
60	貝形花鳥文向付 五客	かいがたかちようもんむこうづけ	4.1	19.5
61	蝶形向付 五客	ちょうがたむこうづけ	3.8	15.6
62	鶏形向付 五客	にわとりがたむこうづけ	3.6	15.7
63	山羊形向付 五客	やぎがたむこうづけ	4.3	16.3
64	海老形向付 五客	えびがたむこうづけ	4.0	20.1
65	寄向付海の幸山の幸 八客	よせむこうづけうみのさちやまのさち (蟹)	4.2	15.3
66	笠絵茶碗	かさえぢゃわん	8.6	13.1
67	龍虎図風字硯	りゅうこずふうじすずり	3.9	16.2
68	双鹿文輪花鉢	そうろくもんりんかばち	5.9	17.4
69	地獄極楽図菱花小鉢	じごくごくらくずりょうかこばち	5.9	20.8
70	山水騎馬人物瓢形鉢	さんすいきばじんぶつひさごがたはち	6.7	24.3
71	瓜栗鼠浮文輪花深鉢	うりりすふもんりんかふかばち	6.3	19.1
72	山水文菊花小鉢 天啓五年銘	さんすいもんきくかこばち てんけいごねんめい	4.4	15.5
73	唐子図鉦鉢	からこずどらばち	4.6	17.7
74	唐花文銀杏形平鉢	からはなもんいちようがたひらばち	3.5	23.2
75	橋人物図深鉢	はしじんぶつずふかばち	6.6	21.2
76	釉裏紅柳下舟行図七寸皿 五客	ゆうりこうりゅうかしゅうこうずななすんざら	3.6	20.9